

熊本発！経営コラム

「三人寄れば文殊の知恵」は本当か？ 後編

みなさんこんにちは。熊本学園大学の新改です。このコラムでは、これから熊本が直面するであろう事業環境の変化に対して、どのように考え、対応すべきかのヒントを、経営学の知見を踏まえて分かりやすく論じていきます。

今回は、国籍や年齢といった表面的な属性にとらわれない多様性の考え方に焦点を当て、「チームの誰が何を知っているかを共有し、必要な時に適切な知識を活用する能力」の重要性を説明しました。この点については、実は学術的な知見がかなり蓄積されています。ご興味がある方は「トランザクティブ・メモリー・システム」で検索してみてください。筆者が「組織の記憶力」と表現しているのは、まさにこのことです。

今回は、前回の議論を踏まえて、有名なことわざ「三人寄れば文殊の知恵」を実現できる組織づくりについて深掘りしていきます。

このことわざは、異なる背景を持つ人々が協力することで互いの知識や経験を生かし、創造的な解決策が生まれることを示しています。実際、異なる視点が集まることで、より独創的で興味深いアイデアが浮かびやすいです。

さて、どうすればこのことわざが示す状態を実現できるでしょうか。それについては、組織の記憶力を可能な限り高めるべき、というのが本稿での示唆です。メンバーが持つ背景や知識、経験のバラつきが大きいほど、より独創的な面白い「文殊の知恵」が生まれやすいでしょう。揚げ物好きだけで集まって定食メニューを考えても、思いつくのは「フライ盛り合わせ定食」が限界です。揚げ物好きとカレー好きが集まって考えるからこそ、「カツカレー」という「イノベーション」が生まれるわけです。

では、どのような人材を揃えたら「文殊の知恵」は生まれやすくなるのでしょうか。先ほ

どの結論にケチをつけるわけではありませんが、背景や知識、経験が尖った人材が集まるほどチーム内での意見が散らかってまとまらず、逆に良いアイデアが生まれなさそうですよね。どうやら、ただ多様性があるだけでは不十分なようです。

ここで重要になるのが、「触媒」の役割を果たす人材だと筆者は考えています。お酢と油は決して混じり合いませんが、卵を加えるとマヨネーズになります。メンバーの尖った意見・アイデアを解釈し、つなげたり掛け合わせたりする人材が加わるだけで、一気に話が前に進むと思いませんか。

ポイントは、この人材自体は決して尖っている必要はないということです。むしろ、異なる意見やアイデアを理解したうえで構造化し、結びつける能力、つまり論理的思考力を持っていることが重要でしょう。そして、この論理的思考力は練習で身に着けることが可能です。

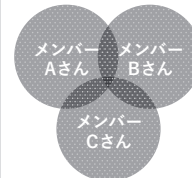
ここまでの議論をまとめると、個性的な人材を三人と言わず可能な限り数多く揃えつつ、多様な意見・アイデアを解釈してつなげることのできる人材を育成できるかどうかかがカギとなりそうですね。

ただ、最後にひとつ気になることが出てきました。そもそも、このような個性的なメンバーを揃えた組織を継続的にマネジメントしていくのはなかなか難易度が高いです。その点はどうやってクリアしましょうか。

結論をいうと、全メンバー共通のブレない目的と目指すビジョン、行動方針、目標を明確に定めて、伝え続けることが、ベタですが最も重要だと筆者は考えます。これらがなくままに集められたメンバーは、どんなに優秀であってもまとめるのは難しいですし、途中で「空中分解」することもあり得ます。特に、部門

横断型の全社プロジェクトを立ち上げる際に起こりがちなので、注意が必要でしょう。

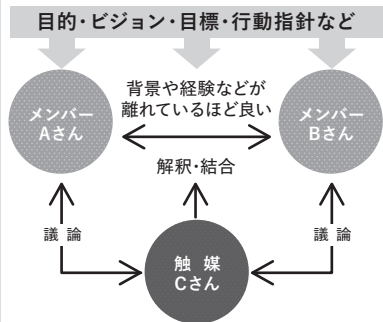
「文殊の知恵」が出にくい組織



背景や経験などが似たようなメンバーで構成

マネジメントしやすいが
独創性は出しにくい

「文殊の知恵」が出やすい組織



目的・ビジョン・目標・行動指針を定めて共有！
独創的アイデア発現の可能性大!!!

さて、前後編にわたって、多様性と組織の記憶力の関係、「文殊の知恵」を生み出す組織の条件について論じてきましたが、いかがでしたでしょうか。少しでも参考になれば幸いです。次回からはまた新しいテーマでお送りしますので、ぜひ引き続きよろしくお祈りします！

新改 敬英

熊本学園大学大学院会計専門職研究科 准教授
博士(経済学)、ワシントン州公認会計士。
専門は管理会計論および組織マネジメント。

次代舎 Kumamoto Innovation School
Jidaisha

2024年度 無料プレセミナー開催決定！

第1回：5月24日(金) 第2回：6月14日(金)

実業界からのゲスト登壇、ミニ講義、修了生発表、パネルディスカッションなど

▶ 熊本県主催のビジネススクール

熊本の次世代を担う若手経営者・幹部候補生を育成。新たなマーケットを創造する知識と実践的ノウハウを養うカリキュラムが充実。精鋭講師陣による実践的な議論、講座外のサブゼミで学びを深化させます。

▶ 次代舎の5つの特長

1. 企業経営と事業創造の両方にフォーカス
2. 「マトリクス型」の指導体制
3. 徹底的なアウトプット
4. 対面とオンラインによる重層的な学び
5. 自分で創り上げる「事業イノベーションノート」

お問い合わせ先

熊本学園大学付属産業経営研究所
Tel.096-364-5161 <https://jidaisha.org>

詳細については

次代舎

検索

